

12月25日(月)

ど ち ら の 仲 間 に な り た い か

聖書朗読 箴言 14:1~7

そのすべてのことを、徳を高めるためにしなさい。 I コリント 14:26

ソロモンの箴言には次のような箇所があります。『知恵のある女は自分の家を建て、愚かな女は自分の手でこれをこわす。』(1:1)。もう少し性差のない表現でも良かったかと思いますが、いずれにせようまいたえであると思います。この聖書箇所から古い言い伝えを思い出しました。それは、「覚えておくと良い事、実際にするならもっと良い事、それは、解体作業をする者とはなく、建物を建てる仲間と共に働きなさい」というものです。預言者エレミヤには、『あるいは引き抜き、あるいは引き倒し、あるいは滅ぼし、あるいはこわし、あるいは建て、また植えさせる』(エレミヤ1:10)、という主のことばが与えられています。

確かに、より良い物に置き換えるためには、何かを壊さなければならないこともあります。ただ破壊の専門となる事のないようにしましょう。ここで大切なのは、不完全なものが取り除かれたら、より良いものをそこに立て上げることです。箴言にも記されているように、知恵は家を建て、愚かさは滅びをもたらします。パウロは、信徒たちに、主の働きに用いるものを注意深く選び、時を知り、私たちの働きを究極の試練としようとするサタンの働きを覚えているよう忠告しています。そして、破壊する仲間たちに加わることについて、こう警告しています。『もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたがその神殿です。』(I コリント 3:17)

讃美歌 341

祈り 親愛なる主よ。あなた様の知恵で私を満たし、神殿を建て平和をもたらす道具としてくださるよう祈ります。どうか私が破壊する仲間と共に歩むことがないようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

パット・アンドリュ
テキサス州 アビリン

今日の力

2017年12月25日～12月31日

翻訳 藤岡伸子

鈴木慈久

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月26日(火)

急ぎ足

聖書朗読 箴言 19:1~4

神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。
Ⅱテモテ 1:7

私たちの教会を増築するにあたり、お金を節約するため、教会のリーダーたちは、増築作業をすべて教会員で行うことに決めました。恵まれたことに、増築の各作業に慣れた教会員がおり、それぞれの作業に詳しい多くの働き手と助け手が与えられそうでした。最初の作業は、コンクリートの引き剥がしでしたので、まず削岩機を借りてきました。その作業のために圧縮機を準備したところへ、経験も浅い男性たちの一人が、自分がやってみると志願しました。彼は削岩機を使った経験もなかったもので、周囲の人たちは止めようとしたのですが、彼はその忠告にも関わらずその大きな道具で作業に取り掛かろうとしました。すると数秒もしないうちに、削岩機は跳ね返って、ただ空中に虚しく穴をあけることとなりました。何ということでしょう。

『熱心だけで知識のないのはよくない。急ぎ足の者はつまずく』(19:2)とソロモンも記しているように、あなたも、少しのひらめきや思い付きだけでなく、それに伴う経験があるかどうかを吟味する必要があります。1世紀ごろの教会でも同じようなことが見られたのでしょう。使徒パウロは、こう言っています。『私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。』(ローマ10:2~3)。これはとても残念なことです。

讃美歌 79

祈り 親愛なる主よ。進む道が未知であり慣れていないからといって、先へ進むことが出来ないということのないようにしてください。けれども同時に、良いと思い込んで物事に飛び込む前に、じっくり見て、よく聞くことを学ばせてください。そしてあなた様の時をじっくり待つことを教えてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ビル・アドコックス
オクラホマ州 ベサニー

12月27日(水)

闘いか 平和か

聖書朗読 箴言 29:8~13

すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。
ヘブル 12:14

フェイスブックの書き込みにとっても不快なものがありました。メッセージを書いた人が、誤解に基づいた内容を他の人とシェアするのであれば、その傲慢な意地の悪い表現は控えるべきであったと思います。そうした内容は、誰かが誤解を解く作業をしなければなりません。

ソーシャルメディアでも実際の会話でも、私たちは他の人と意見が大きく異なることがあるでしょう。そのような時、両者の違いについて話し合う場を設けるのはとても有効です。けれども、その時のあなたの言葉は、溝をさらに深めるものとなっていないですか。それとも、和解しようと熟慮した上で発する言葉となっているのでしょうか。

箴言には、『愚かな者は怒りをぶちまける。しかし知恵のある者はそれを内におさめる。』(29:11)とあります。

神は私たちとの平和のために御子を犠牲としてくださいました。他者との関わりにおいて、自分の自制や思慮深さ、赦しでさえ相手に示すことは、多少なりとも出来るはずです。闘争的な姿勢ではなく柔和であること、それは御霊の実(ガラテヤ 5:22)であることを覚えておきましょう。神が求めておられるように、平和を作る人となりましょう。

讃美歌 531

祈り 親愛なる主よ。私たちに信仰と勇気を与え、あなた様の御慈愛を周囲の人に示すことが出来るようにしてください。あなた様のご聖霊によって平和の道を歩ませてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケビン・B・レイチェル
テネシー州 ナッシュビル

12月28日（木）

冬 の ス イ カ

聖書朗読 伝道者の書 3：1～15

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見極めることができない。

伝道者の書 3：11

今の時代は、一年を通していつでも果物が手に入る便利な時代です。けれども、農場で育った人に聞くと、本来果物は、それぞれ決まった季節に成長し旬を迎えるのだということを教えられます。確かに、今は冬でもスイカを食べられますが、みずみずしく甘くておいしい夏のスイカを食べた後に食べる冬のスイカは、比べるまでもありません。冬のスイカでも栄養はあるでしょう。けれども、夏のスイカには、深みと甘み、自然な風味といった、冬のスイカにはまねのできないものがあります。

物事にはすべて、相応しい時があります。今日の聖書箇所には、『天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。』（3：1）とあります。私たちは、限られた自分の視野や人間の知恵に頼り、つい先を急ぎがちです。けれども、そこには私たちに備えられた神のご計画があるのです。何かを始めるにあたり、もう準備万端で、全力で取り組み成し遂げることが出来そうだと思うことがあっても、主の時に事を成していただくのでなければ、同じことをしても、その深みや豊かさは伴わないものとなるでしょう。神に平安を与えていただき、私たちの歩みの上で、相応しい時に、素晴らしく完全で深い神のみこころを働かせていただきましょう。

讃美歌 80

祈り 神よ。私たちの救い主、日々の歩みにおいて、ついあなた様の時を待てずに焦ってしまいます。どうか私たちの精神、心、霊を整え、心からあなた様をお待ちすることができるようにしてください。私たちの歩みに、あなた様の最善の目的がなされますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

サブリーナ・スチュワート
フロリダ州 タラハッセ

12月29日（金）

神 は 待 っ て お ら れ る

聖書朗読 イザヤ 8：11～17

わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

マタイ 28：20

スマートフォン、オンデマンドの視聴、翌日配送という現代、待つという概念は全く考えられない世の中となっています。今すぐ手にすることができるのに何故待つのか。私たちはまるで、あらゆるものを待つことを排除する任務を負っているかのようで、テクノロジーがそうした任務を全うする道具ともなっているかのようです。

待っている間というのは、その間何か他のことが起きているのでしょうか。それとも、ただ時間の経過に過ぎないのでしょうか。この間に対する答えは、私たちがいかに生き、さらに重要なことである、いかに神と関わるかという事と深く関わっています。

イザヤは、『私は主を待つ。…私はこの方に、望みをかける。』（イザヤ8：17）と言っていますが、ここでイザヤは、神が今はおられないが、いつか現れてくださることを期待すると言っているのでしょうか。決してそうではありません。思い出してください。イエス様は「私はあなたがたとともにいる」とおっしゃっています。

私たちが神を待つとき、神が現れることをお決めになるまで、時が流れるのを辛抱強く待つことができません。けれども、待っていたら、神は驚くような形でご自身を現されます。私たちが抱えている問題を解決し、痛みを取り除き、あるいは、与えられた試練から解放してくださる代わりに、神は、私たちに必要なものを示され、ご自身の主権を表され、癒しの恵みにより私たちを慰めてくださいます。神はじっくり待つときに見いだされるのです。

讃美歌 291

祈り 父よ。待っている間、私たちの目を開いてあなた様を見、耳を開いてあなた様に聞き、心を開いてあなた様を知ることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

チャック・ブライアント
テキサス州 ラボック

12月30日（土）

偉 大 な る 主 の 御 手

聖書朗読 イザヤ 40：12～14

主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を受け、英知の道を知らせたのか。
イザヤ 40：14

スペースの幅や板の長さなど何か測りたいものがあるとき、自分の手でまず大雑把に測ってから、測りたいものの大きさと比べて、だいたいサイズを知ることがあるでしょう。

今日の聖書箇所ではイザヤは、私たち被造物と創造主とはどれほど掛け離れた存在であるか、その差を秤にかけています。象徴的な表現かもしれませんが、天を押し測り、あるいは、地のちりを升到る神の御手の大きさを想像してみてください。それはなんと大きな升でしょう。

イザヤはこう問いかけています。「主の顧問は誰か」。この問いに私たちはすぐさま「主に顧問など誰もいない」と答えるでしょう。けれども私たちが祈るとき、自らが神の顧問となっている事がどれほどあることでしょうか。自分の考えに頼り、自分が立てた計画をお恵み下さいと神にどれだけ願っていることでしょうか。そのような祈りを振り返ると、私は自分がいかに傲慢であることかとショックを受けます。天と地を造られたお方、そして肉の身体となられたにも関わらず一度も罪を犯すことなくこの世を生きられたお方以上に、自分にはどれだけの知恵や知識があるのかと考えさせられます。

私は物事を大局的に見ることも出来ませんし、神の知恵などあるはずありません。イエス様が私たちに、「あなた様の御国が来ますように、そして、あなた様のみこころが成りますように。」と祈るよう教えられたのも、当然のことです。

讃美歌 76

祈 り 父よ。私の傲慢さをお赦し下さい。様々な状況に直面する際に、あなた様のお考えとお導きを、あなた様に求めることが出来るよう諭してください。あなた様が善であり忠実なお方であることを感謝します。あなた様のみこころが成りますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

バージー・A・ナイマン

コロラド州 ニューカッスル

12月31日（日）

神 様 は 約 束 を 果 た さ れ る

聖書朗読 イザヤ 54：1～10

わたしはあなたがたと契約を立てる。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。

創世記 9：11

「もう二度としない！」 人々はこれまで何度自分自身に、あるいは他の人に対してこの約束をしてきたでしょう。その人たちはたぶん何か止めるべき習慣にとらわれていたのでしょうか。その行為は自分自身や他の人を傷つけるものでした。言葉は口にするのは簡単です。そしてその人たちは変わりたいという強い意志も持っていたでしょう。しかしすぐに彼らは自分が全く同じ習慣を繰り返していることに気付くのです。

中毒を乗り越えることの難しさから、人々は自分の約束がいかに守れないものであるか思い知らされます。習慣を変えることは大変です。習慣をやめるための挑戦には長期的な行動が必要です。

しかし聖書の中でも最初の方にある、創世記9：8～17で、神様はノアと、後の世のすべての者に対して、もう地球を洪水で覆うことはしないという契約を立てました。そして神様はイザヤ54：9～10で、ご自身の民への愛に満ちたあわれみの約束を示すためにこの誓約に言及しています。天のお父様は二度と、地球に住むすべてのものを洪水で滅ぼすことはしませんでした。神様はその変わらない愛を決して捨てず、平和の契約に対して真実であり続けることを誓われました。これは、イエス・キリストにある救いにあずかっているすべての人々に当てはまることではないのでしょうか？ ご自身に対して真実である人たちを決して滅ぼすことをせず、あわれみと愛のみを示すという神様の約束をいつも信じていようではありませんか。

聖 歌 498（歌いつつ歩まん）

祈 り 私たちの信じる天のお父様。あなたが信じるに足る方でいてくださることに感謝します。私たちがあなたのあわれみと愛をいつも信じていることができますように！

イエス様の御名前により。アーメン。

ロバート・P・リー

コロラド州 オーロラ